

最近、早起きをしてお日さまを拝みます。ビルの狭間から曙光が差しはじめるのを見ながらアフターメーションをくり返し、一日の計画を練ります。ある日ふと考えたんです。日本の医療界に曙光が差す日はあるのだろうか。

病院でとても不思議な光景があります。大部屋におばあちゃんが4人います。1人のおばあちゃんが朝食を食べている横で、別のおばあちゃんはポータブル便器で排泄をしています。病院では日常の光景ですが、世間では決して見かけることのない不思議な風景です。医療界の常識は世間の非常識です。医療界の非常識は世間の常識です。「何でこうなっちゃんたんだろうか？」って考えます。「制度の問題だ!」「医療人だけでなく患者さんのモラルの低下も問題だ!」と叫んでも何も変わりません。何ができるのかを考えることが必要です。知恵をつかわなくっちゃあいけません。

よかれと思ってやったことが、逆に反感を買うことがあります。与えられているとそれが当たり前になっちゃん、与えられ続けないと不平不満が出てきます。今の医療界がまさにそんな気がします。互いが権利ばかりを主張し、義務を果たそうとしません。相手より、より多く、より早く、より良いもの、より高価なものを求めようとします。資本主義の世界ではその欲望で人類は進化し、高度な文明を築き上げてきました。今や行き過ぎた文明を止めることは出来ません。医療も文明の部分集合です。文明の暴走を止めることが出来るのは、文化だけです。文化の重要性に気付いたときにはじめて文明の暴走を止めることが出来ます。競争する社会は終わりです。時代は、理性や感覚の時代から感性の時代になっちゃんいました。しかし、観念や概念が邪魔して、行動が出来ません。常識をどのように打破するかが問題です。高失業率、低賃金、基地問題、環境保全etc沖縄の問題点は山積みです。でも沖縄の魂と経済、つまり文化

と文明を交換しちゃあいけません。

玉城信光先生が県政策参与に就任し、その激励会の模様が報告されています。離島医療問題、県立病院の赤字問題、医師不足問題、小児医療、救急医療、多くの問題が累積されています。理性だけでは解決出来ない問題ばかりです。右手にロマン、左手にソロバンをもって取り組むのを期待いたします。医師の倫理に関する講演会の記事は、興味深く読ませていただきました。倫理観の欠如は医療人だけの問題ではありません。家庭、学校、職場、国いろんなところで倫理観がなくなっています。医療人である前に人間としての倫理観を磨きたいものです。兵頭先生と岩田先生にはアカデミックなお話を書いて頂きました。IVR手技と成績の進歩には目を見張るものがあります。また、ヒト咬傷についても学ばせて頂きました。

伊江朝次先生のインタビューでは、離島医療のご苦労が伝わってきます。4Sを理念として掲げ、「信頼を得るには何十年もかかるが、信頼を失うのは瞬時である」という座右の銘には共感を覚えます。久田友治先生には医療安全に対する認識の変化を述べていただきました。奇しくも文化が変わったと書いておられます。エールを送りたくなります。

今月の随筆は宇宙と旅がテーマでした。星に夢を抱き、宇宙に思いをはせる。宇宙と旅は感性との出会いです。旅は出会いです。同級生との出会い、素晴らしい景色そして人情との出会いがあります。物理学者、科学者は真なる美を追究します。アインシュタインや湯川秀樹が最後にたどり着いたのも感性の世界でした。藤原正彦氏も論理よりも情緒、祖国とは国語であると述べています。大切なものを忘れちゃいけません。

広報委員 久高 学